

あとがき

第3号の発刊にあたり国内外から多くの論文や随筆をお寄せ下さり、豊富な内容になりましたことに感謝と御礼を申し上げます。

弊大学山岡学長と華道池坊・池坊由紀次期家元との対談で「野菜を生ける」が話題となりましたが、その後、京都府立植物園でそれが実現し、長い池坊の歴史の中でエポックメイキングな対談の掲載が出来ましたことは嬉しいことでした。

また、裏千家前家元千玄室大宗匠の昨秋の弊大学国際観光学部三年生への講義録も掲載できました。千大宗匠には今年の四月に満百歳になられます。激動の百年の智慧の集積—日本文化とは何か—を平易な語り口で講義をされた貴重な記録となりました。

伊崎一夫氏の「伝統文化の学びと幼児教育への期待」は弊大学が全学を挙げて茶道を教育と研究対象とする裏付けとなった論文であり、また守破離の守を幼児教育の段階と位置づけられたことは、こども教育学部やその学生にとっても意義深いものになりました。誠に有難いことでした。

韓国の朴銓烈氏の「韓国芸能における五行思想の表現方式」は私も陰陽・五行思想が茶の湯の原理であるとした論文を認めており、個人的にも興味深く拝読いたしました。東アジアの国々の歴史・文化には陰陽や五行思想が底流にあるにも拘わらず、日本では中国や韓国ほどにその影響が論じられていないことを常々残念に思っております。日本は古代から国家形成、都の造営など多方面に大きな影響を与えています。今回の朴氏の論文を契機として易や陰陽・五行思想と日本文化との関係研究の増進に繋がればと思った次第です。

中国の葉晶晶氏は裏千家学園に茶道の実践研究のための留学経験もあり、茶道に造詣の深い日本文化研究者であります。日本の茶人が愛する染付から日中の美意識の違いの考察でした。葉氏は以前に利休時代の茶人がこよなく愛した牧谿の絵画に対する日中間の評価の相違を述べられた論文がありましたが、それと共に大変興味深いものでした。

この他、弊大学の関係者には紙面のこともあり、コメントを控えさせていただきましたが、尾家建生氏の各研究者の発酵醸造文化論考の論輯、平居謙氏の平成詩人へのインタビューに基づく平成詩史、山本芳華氏の学生のボランティア活動の結果を踏まえた持続可能な日本茶文化の継承への論考など、今回も貴重な研究成果ご寄稿下さったことに、また、ご多端の中に随筆欄「雪間の草」にご寄稿いただいた皆様に御礼申し上げます。

最後に忙しい日々の業務のなか、編集業務をスピーディー且つ的確にこなして下さった余佳さんに感謝申し上げます。

伝統文化研究センター所長 関根秀治